

不怕天

北基行 訳

“天を恐れるな！ 鬼も恐れるな！ 死人も恐れるな！ 官僚も恐れるな！ 軍閥も恐れるな！ 資本家なんか恐れるな！”

これは一九一九年の五四運動後に、毛沢東同志自らが発刊、筆を執った『湘江評論』創刊号に載ったスローガンで、人々の心を奮い立たせた。

革命をする人民が何物も恐れないのは、天を恐れなくなってからだ。天への恐怖心が解き放たれて、はじめて鬼神も恐れることなく、反動勢力一切を恐れなくなる。そうなって帝国主義、官僚資本主義及びその犬どもの凶暴集団の首を据え変えに果敢に立ち向かうことができるのだ。

中国科学院文学研究所により最近一冊の本、『鬼神を恐れない故事』が編集された。内容がとても素晴らしく、人民群眾におおきな感銘をあたえ、思想政治教育に役立った。この本におさめられた鬼神をおそれぬ故事の中に、実は天をおそれぬ故事も含まれている。



『鬼神を恐れない故事』の中の挿絵

天への恐怖、これは地上の人類が有するあらゆる鬼神觀念の根源である。自然現象についての知識を持ち合わせなかった原始人は、天神さまがどこか知らぬところに居られて、この世を主宰されているとおぼろげに感じ取った。天を恐れるようになり、ついで一切の鬼神を恐れるようになった。従って、鬼神を恐れない人は、きつと天を恐れないし、天を恐れるはずがない。

『鬼神を恐れない故事』の中で、天を恐れない故事は特別異彩を放っている。例えば、唐代裴鉞の『傳奇』から採った『陳鸞鳳』では、大旱魃の時、百姓が雷公廟に集まり雨ごいをしたが、なんの効果も表れなかった。陳鸞は怒り狂い、雷公廟に火をつけ焼きはらい、その上当地で忌諱とされる黄魚と豚肉の食い合わせ、なんとこれを混ぜ合わせてたいらげ、雷公さんを激怒させた。それから、雷公と剣舞で争ったうえに、雷公をやっつけ、大雨を降らせることに成功した。その後二十年、旱魃になると、いつもこのような闘争を起こし、勝利を勝ち取った。

これは直接天と争った古代の伝記である。陳鸞のような古代伝奇中の人物は、勇敢なる無神論者であるばかりでなく、反天命主義の猛士と云って差し支えなからう。

古代反天命主義はたいへん有意義な思想で注目に値する。誰かこれを本にまとめてくれないだろうか、人民群眾の教育に役立つと思う。『逸周書』にこう書いている。“兵強ければ人に勝ち、人強ければ天に勝つ。”これは人が天を負かしたことを言葉に表した最初のものであろう。荀子は『天論篇』で言っている、“大なる天として之を思うは、物を畜（たくわ）えて之を制するに孰（いず）与（れ）ぞや。天に従いて之を頌（ほ）むるは、天命を制して而して之を用うるに孰（いず）ぞや。”荀子は我が国古代の唯物論者であり彼が“制天”の主張を提唱した。春秋戦国時代の百家争鳴と呼ばれる論者の中では、傑出した思想の持主であった。林和靖の『省心録』では、“人巧を以て天に勝す”と述べている。これはある意味では人が天に勝ることを前提としており、一步進んで具体的に巧を以て勝を取ることに注目した。



荀子（紀元前313年 - 紀元前238年以降）
中国戦国時代末の思想家・儒学者。
正しい礼を身に着けることを徹底した
『性悪説』で知られる。

林和靖の『省心録』では、“人巧を以て天に勝す”と述べている。これはある意味では人が天に勝ることを前提としており、一步進んで具体的に巧を以て勝を取ることに注目した。総じて、天は恐れるに足らず、人は天に勝るという思想は、我が国の伝統思想の中でも価値ある部分であり、我々は之を引き継ぎ発展させなければならない。

しかし、実践において天恐れるに足らずという精神を發揚することは、生易しいことではない。今日、マルクス主義があり、毛沢東思想の指導があっても、思想を徹底的に解放しなければ、真正なる天恐れるに足らずとは至らないのである。

【掲載当時の時代考証と秘められたメッセージ】

「不怕天」ひとそえ

素直に読むと当たり前のことをそのまま綴ってあるようにも感じます。この文章を読んで大笑いしたり、ほくそ笑んだり或いは苦笑したであろう当時の読者を想像するのは楽ではありません。推理小説の謎解きに習って頻出する文字「怕」「鬼」から紐解きを試みましたが不首尾でした。「怕」は①おそれる②たぶん、といった意味。日本語では見かけませんが、怕老婆（媼天下）怕痒（くすぐったい）などと日常に使われています。諸橋大漢和辞典の「鬼」の項は8頁に及び、他の辞書にも幽霊から始まり洋鬼子（毛唐。欧米侵略者への蔑称）や東洋鬼（日本人への蔑称）まで多岐に渡っているので鬼滅の刃が無ければ解けません。

天・鬼や荀子の思想について、更には「人以巧勝天」の考察を深める必要があります。ヒントになるかなと思うのは、文の初めに「毛沢東同志」とあり、文末に「毛沢東思想」とまで上昇気流に乗った表現があることです。作者は天も鬼も「毛主席」の代わりに使ったのかなと邪推しました。この文章が書かれてから10年も経たない1970年12月18日、毛沢東は延安時代に接触のあったエドガー・スノウと再会し、自分の人生は「和尚打傘」だと表現したという有名な誤訳話を思い出します。「和尚」は無髮（wu2fa1）＝無法、打傘（傘で天が見えない）＝無天、つまり無法無天の生き方をした、という毛沢東のジョークです。無法や無天が不怕天に勝利することは、今の香港でも杭州でも見ることができます。

井上邦久

「不怕天」原文

“天不要怕！ 鬼不要怕！ 死人不要怕！ 官僚不要怕！ 軍閥不要怕！ 资本家不要怕！”这是一九一九年五四运动以后，由毛泽东同志所创办和亲自主持的《湘江评论》，在创刊号上提出的振奋人心的口号。

革命的人民是一切都不怕的，首先是不怕天。只有天都不怕了，才能不怕鬼神，不怕一切反动势力；才敢于革掉帝国主义、封建主义、官僚资本主义及其走狗帮凶们的命。

最近中国科学院文学研究所编了一本《不怕鬼的故事》，好得很，它给了广大的人民群众以巨大的思想政治教育。这部书里收集的不怕鬼的故事中，其实也包含有不怕天的故事。

怕天，这是人类的一切神鬼观念的根源。因为对自然现象不了解，原始的人类才以为在冥冥之中有天神主宰一切。由于怕天，结果对一切神鬼都害怕。因此不怕鬼神的人，也一定不能怕天，也决不可怕天。

在《不怕鬼的故事》中，不怕天的故事也有十分突出的。比如，有一篇采自唐代裴鉞《傳奇》的，题目是《陈鸞凤》。它描写大旱的时候，老百姓到雷公庙去祈雨，毫无灵验，陈鸞凤大怒，一把火烧了雷公庙，并且把当地风俗禁忌的黄鱼和猪肉合在一起吃，以激怒雷公，接着舞刀与雷公搏斗，打败了雷公，赢得了一场大雨。后来二十多年，每遇天旱，他就坚持这样的斗争，都得到了胜利。

这是直接与天作战的古代传奇。象陈鸞凤这样的古代传奇人物，不但可以算做勇敢的无神论者，而且应该算是反天命主义的猛士了。

古代反天命主义的思想很值得注意，最好有人也把它们收集起来，编成一本书，来教育人民群众。《逸周书》上说：“兵强胜人，人强胜天。”这大概是最早肯定人能胜天的言论。荀子在《天论篇》中也说：“大天而思之，孰与物畜物而制之；从天而颂之，孰与制天命而用之。”※(天は偉大であるから助けてくれるのではないかと頼みにするよりも、せつせと働いて物を蓄え、自然の変化に順応するほうがいいのではないか。お天とさまに従い、誉め讃えるよりも、自然の変化に対処活用していくほうがいいのではないか。)

荀子是我国古代的一个唯物论者，他提出这种“制天”的主张，※(天命を制することは不可能で、ここでは受動態、制せられるととり、自ら進んで制せられることは、自然の変化に順応する意となる。古文は受動、能動の区別が無かった点に注意。)

应该承认在春秋战国时代的百家争鸣中是一种杰出的思想。在他以后，历代还有不少思想家表示了同样的见解。如林和靖在《省心录》中说：“人以巧胜天。”这在某种意义上似乎是以肯定人能胜天为前提，而进一步比较具体地注意到要以巧取胜了。总之，天不可怕、人能胜天的思想是我国人民传统思想中很有价值的一部分，我们应该继承与发展它。

但是，要能够在实践中充分地表现出不怕天的精神，也不是很容易的事情。今天，只有我们有了马克思列宁主义，有了毛泽东思想做指导，彻底解放思想，这才能够真正不怕天。